



## 報告書

# 京大生による塩飽部隊プロジェクト PART3

## — 島の魅力発掘 —

2017年8月吉日  
四国夢中人 代表 尾崎美恵

**京** 都大学の学生サークル 農業交流ネットワーク (通称：農交ネット) と香川県の四国夢中人が共同で進めている、塩飽諸島活性プロジェクト。猛暑をものともせず開催された第3回のテーマは「島の魅力発掘」です。

### 瀬戸の幸



島の方々が丹精込めて作った有機栽培の野菜に果物。そして採獲れたてピチピチの魚介類。

遺徳を偲び、仏の道に尽くす。  
手島の八十八ヶ所札所に受け継がれる弘法大師の民情を感じて。



### 島遍路の清掃

## 実施概要

- 日程** 平成29年7月29日～31日 (3日間)
- 場所** 香川県丸亀市 塩飽諸島 手島  
(平成27年：19世帯27名、周囲10km)
- 宿泊先** 手島自然教育センター  
(旧手島小中学校)
- 活動内容** 7月29日(土) 香川本鷹栽培観察、ひまわり畑視察  
7月30日(日) 手島港周辺の草刈り、島遍路の清掃  
7月31日(月) 農機具使い方講座
- 食材提供** 魚介類：漁師 浜本氏  
野菜・果物：手島のみなさん



# 参加者

## 京都大学・農業交流ネットワーク

農学研究科助教／農交ネット創設者	大石 和男 氏
人間環境学研究科共生人間学専攻 修士2回生	尾崎 純 さん
農学研究科応用生物科学専攻 修士1回生	荒川 貴行 さん
農学研究科地域環境科学専攻 修士1回生	兼近 深宇 さん
農学部資源生物科学科 3回生	池田 茉史 さん
農学部食料・環境経済学科 3回生	岩男 望 さん
農学部食料・環境経済学科 2回生	柴田 星斗 さん
総合人間学部 1回生	田中 花音 さん



## 地元関係者

JR四国代表取締役社長	半井 真司 氏
JR四国事業開発本部担当課長	黒川 克二 氏
JR四国事業開発本部	谷井 俊輝 氏
JR四国営業部アンパンマン列車事業推進室	谷井 夕貴 氏
株式会社久保田麺業代表取締役	久保田剛司 氏
	ご家族1名
株式会社久保田麺業営業部長	倉田 茂幸 氏
	ご家族3名
香川県政策部自治振興課	大熊 智美 氏
香川県議会史編纂室長	高山 桂一 氏
香川県商工労働部企業立地推進課	土居 義昌 氏
元丸亀市都市整備部建設課長	五百森信幸 氏
作家	広谷 鏡子 氏
株式会社KmD代表取締役	大鹿 文明 氏
Iターン島民	田中 逸雄 氏
丸亀市市議会議員	東 由美 氏
丸亀市生活環境部市民活動推進室離島振興室長	山田 健司 氏
百十四銀行／香大大学院地域マネジメント研究科	大西 紘司 氏
京都大学農学部食料・環境経済学科2011年卒	岩澤 素子 氏
四国夢中人代表	尾崎 美恵 氏

## 取材協力

読売新聞大阪本社高松総局記者	浅田 真理 氏
NHK高松放送局アナウンサー	川崎 理加 氏
四国食べる通信カメラマン・デザイナー	坂口 祐 氏

## 協賛企業

- ・JA香川県「讚さん広場」
  - ・農協食品株式会社
  - ・アサヒビール株式会社四国統括本部
  - ・株式会社久保田麺業
  - ・JR四国
  - ・株式会社穴吹トラベル
- :おいで米30キロ／アスパラガスなど野菜／焼き肉など  
 :鳥もも肉20キロ／味付け骨付き鳥30本  
 :十六茶600ml 24本／三ツ矢サイダー500ml 24本  
 :ラーメン8箱／竹清の釜かけうどん10袋／  
 骨付鳥味さぬき焼うどん15袋  
 :ビール／ノンアルコール／ジュースなど

## 協力

- ・NPO法人 石の里広島
- ・手島自然教育センター(宿泊先)



**高** 田氏は幻になりつつある香川本鷹をはじめ、多くの野菜を育てながら、丸亀市内の保育園児たちに収穫体験指導も行っていきます。さらに、広大な畑一面にひまわりを植えて夏の風物詩を演出。そんな彼から瀬戸内海の農業について学びました。



**自** 治会では、毎年お盆に帰省される方々を気持ちよく迎えるために、島民総出で港周辺の清掃をしています。農交ネットのメンバーも草刈り機や箒を手にとり、お手伝いしました。

**手** 島では島内八十八ヶ所巡りができ、春と夏の年2回お大師まいりが催されます。札所は生活道路・海岸・竹林の中にありますが、道が閉ざされたり、祠が崩れたりしているものも多い状態です。そこで8月21日のお大師まいりを前に、8番札所の千手観音から23番札所の薬師如来まで続く遊歩道の約1.5kmを島民のみなさんと清掃しました。



**草** 刈り機とチェーンソーの使い方を吉田氏と藤原氏から学びました。講義の後はさっそく実践。はじめは手元がおぼつかなかったメンバーもだんだんとコツをつかみ、お二人に褒めていただけるほどに上達しました。



**本** 島、広島、与島、牛島、手島、小手島など大小さまざまな28の島からなる塩飽諸島。「塩飽(しわく)」という名前の由来は、坂出などでさかんだった「塩焼く」からきているとも、激しい潮流を意味する「潮湧く」からきているともいわれています。周辺海

域は古くから、潮の流れが速いながらも海上交通の要であったため、船の操舵に長けた島民の航海技術が重宝され、戦国時代には塩飽水軍が活躍しました。その後、江戸時代にも自治権が安堵され、島独自の歴史や文化が育まれてきた場所です。



## 参加者からのメッセージ

おおいし かずお

大石 和男氏

京都大学大学院農学研究科助教/  
農業交流ネットワーク創設者  
広島県出身

手島訪問も回を重ねるごとに、島民のみなさまとの親密度が高まってきているように感じます。今回も、港の一斉清掃のお手伝いや、浜辺の漂着物の清掃活動を通じて、楽しく交流することができました。また最終日の草刈り講習は、島民との信頼関係があったからこそ実現できた取り組みだと思えます。これからも、農交ネットの特技を活かした形で手島との交流を続けていければ幸いです。



夏の日の草刈りは朝7時にスタート

いわお のぞみ

岩男 望さん

京都大学農学部食料・環境経済学科3回生  
神奈川県出身

今回は、初訪問時から待ちに待っていたひまわり畑を見る機会。港から教育センターへ向かう途中、前回の訪問時には何もなかった所に、一面に広がる満



夏空にひまわりが映える

開のひまわり！西浦海岸へ続く道の脇にも。その美しさに夢中になり、手島を訪れる人のために手間をかけてひまわりを育てるといこと、なんとというエネルギーだろうと

思いました。草刈り、お遍路道、海岸、食事、テーマの通り「島の魅力を発掘」する中で、島民の方、手島出身の方、美恵さんとのつながりのある方と会いました。島民は23人になったと聞きましたが、何らかのつながりのある方々がたくさんいて、そしてその方々が交流している光景を見て、島の印象が今までで一番明るく感じました。



いつも島まで運んでくれるフェリーのお兄さんといっしょに

おざき じゅん

尾崎 純さん

京都大学大学院人間環境学研究科  
共生人間学専攻修士2回生  
千葉県出身

今回は、初めての夏訪問でした。そのため、一番の楽しみは何といても、夏の手島名物「ひまわり畑」。船着き場へ降り、歩き出した瞬間、いつもの道が黄色に彩られていた光景が忘れられません。真っ青な夏空と瀬戸内海の淡青色も加われば、もう水彩画の中を歩いている気分。夜は夜で、漆黒の瀬戸内海を照らす月灯りや、遠くで煌めく船のライト、頭上に輝く満天の星々が美しく、自然の宝石箱を覗くようでした。四度の訪問を通じ、季節ごとの島の表情に触れられたことも印象的でした。夏にはお遍路道の竹林のカーテンや苔むした地面の緑が涼やかですが、秋には一変、島全体が紅葉に染まります。そんな四季に移ろう手島は、まさに「秘境化した京都嵐山」。観光客轟めく京都に疲れた人たちにも、ぜひ一度ご来島いただきたいと思いました。その他印象に残ったことは、島行き船の兄ちゃんとの関係性の変化です。最初は乗船の勝手が分からず、「チケットは?!」「早よ乗って!」と、怒鳴られてばかりでした。が、回を重ねるごとに談笑の機会も増え、今回なんと、往路便の降り際に「いつ帰るん」と言って、自分

の勤務予定を確認するほど気にかけてくれました。回を追うごとに、島の人たちだけでなく、フェリーなど「島に関わる人たち」との関係性も深まっていることを発見し、今までにない喜びを感じました。

---

かねちか みう  
**兼近 深宇さん**

京都大学大学院農学研究科  
地域環境科学専攻修士1回生  
奈良県出身

---

自分が暮らす京都は都会で、道を歩けばすれ違うのは知らない人同士、人はたくさんいるけれども関わりを持つのはコンビニの店員さんだけ、それが誰にも束縛されず何でも手に入る暮らしであると、自由を満喫していると思っていました。手島に到着した時、コンビニもなければお店もない、自動販売機が一つしかないのは、なんて不便なのだろうと感じました。



恒例となった大勢での屋外バーベキューで交流を深める

しかし、手島での滞在を終え、京都での日常に戻って、手島での生活を思い返すと、あらためて人間関係の濃さに対する自分の渴きに気付かされました。みんなが知り合いで、一緒にお酒を飲めて、色々な話ができて、そんな普通の事こそ都会では得難い、手島の魅力なのではないでしょうか。

---

いけだ まふみ  
**池田 茉史さん**

京都大学農学部資源生物科学科3回生  
奈良県出身

---

私は今回が4回目の訪問でしたが、今回は島の良さを一番満喫できたのではないかと思います。島に着いて一番に目に入ったのは向日葵。話には聞いていましたが、予想以上でした。こんな綺麗な花畑は



美しい海に思わず服のままで飛び込んだ

なかなかお目にかかれません。さらに、海や、実がなり始めた香川本鷹など夏は見どころ満載でした。また今回も島の方たちに非常にお世話になりました。夜、一緒に飲んで話して、笑って、前回より心の距離が縮まったような気がして嬉しかったです。そして草刈り機講習も勉強になりました。行けば行くほどまた行きたい。島の人たちに会いたいなあ。と思っています。また次回もよろしくお願ひします。

---

あらかわ たかのり  
**荒川 貴行さん**

京都大学大学院農学研究科  
応用生物科学専攻修士1回生  
大阪府出身

---

船が港に着くと、島民の方が非常に温かい笑顔で私たちを出迎えてくれました。あいさつを交わした後、島の中を探索すると次は様々な草木の出迎えを受けました。マリーゴールド、季節終わりのラベンダー、ミカンやビワの樹々。草木の移り変わりを楽しみながら歩みを進めると、最後に、辺り一面に広がるヒマワリ畑が目飛び込んで来ました。輝く太陽と透き通った海を背景に一際鮮やかなヒマワリは本当にきれいで印象的でした。手島は小さい島ですが、今回の訪問で様々な島の魅力と遭遇することができました。

手島では、訪れる度に次々と島の魅力に気づいていきます。手島にまた訪れたいなあ、これは今回抱いた、私の率直な気持ちです。



島を彩る色あざやかな花たち



軒先の何げない風景も魅力的

しばた せいと  
**柴田 星斗さん**

京都大学農学部食料・環境経済学科2回生  
東京都出身

今回手島を訪れて、都会の喧騒から離れて過ごした3日間は大変に印象深かったです。また、島の人々や自然との触れ合いの中で、様々な魅力を感じましたが、一方で、危機感も覚えました。現在は特に大きな問題もなく、島の人々は生活を送れているかもしれませんが、5年後、10年後を考えた時に、多くの困難に直面するのではないのでしょうか。例えば、買い物、医療、介護といった問題が考えられます。したがって、島の人々は、島の今後のあり方や、何を望むかなどについて改めて考える必要があるように思います。その上で、私たち外部の人間には何ができるかを考え、実行していきたいです。



初めての草刈り機に悪戦苦闘

したのは手島の方々の体力です。私たちが朝ごはんを食べるために宿舎に戻って、帰って来た時もまだ草刈りを続けていました。また、その団結力にも驚きました。自分の島だからこそ協力して港の景観を

たなか かのん  
**田中 花音さん**

京都大学総合人間学部  
1回生  
神奈川県出身

2日目の朝、早く起きて手島の方々と一緒に草刈りをしました。手島の方々は草刈り機を駆使して港の近くの雑草を刈り、それを私たちが箒で掃いて集めるという作業です。驚かされた

良くしようとする姿勢を感じました。また、3日目には実際に草刈り機を使わせてもらいました。草刈り機は危ないため使用する時には注意を払わなければならない、大変でした。これを使いこなす手島の方々には本当に恐れ入りました。

おおにし こうじ  
**大西 紘司氏**

百十四銀行/  
香川大学大学院地域マネジメント研究科

今回は、手島のみなさんがご家族のお盆の帰省に向けて港周辺の草刈りをするタイミングだったため、そのお手伝いを少しさせていただきました。夏の暑いなか除草剤を使わずに草刈り機を使って作業をしていたのは、海が近いいため、魚などへの被害を考慮して、ということも



ひまわり畑では自然と笑顔になれる

理由の一つらしい。ただし、みんなで昼食をとっていた時に、島の方や遊びに来ていただいた方たちみんな話をしていると、現在は海への影響のない除草剤というものも開発されている、という話も出た。もしかすると、環境への被害の少ない除草剤を散布すれば、暑い中みんなで集まって草刈りをする必要はなくなり、負担が軽減されるかもしれない。このように、色々な方が集まって、何気ない会話の中から現状を変えるヒントが生まれることもあるのだな、という発見があった。また、今回も尾崎代表に誘われて(?)新しく手島を訪問された方がたくさんいらっしゃった。島に実際に来てみないと分からないことも多い。ひまわりの大きさ(特に葉っぱ)や、すずめではなくツバメが電線にたくさんとまっていること、西浦の海岸からみる夕日や月のきれいさなど、私自身も今回3回目の訪問であるが、多くの発見があった。「何もない島」と思われている手島でも、十分に魅力がある。

そのことを知るために、またたくさんの人に島に来てもらいたい。そして、みんなで島についてもっと話し合うことで、新しいアイデアやヒントが生まれてくると思う。

くらた しげゆき  
**倉田 茂幸氏**

株式会社久保田麺業  
営業部長

今回初めての参加となりましたが、島の方々や参加者の方々と時間を共有させていただき、貴重な経験をさせていただきました。前回は参加させていただいた我が子が目を輝かせて手島の良さを話している姿を見て、期待をしておりましたが、実際目にする生の手島は想像を超えておりました。ひまわり畑、香川本鷹、山を越えて突如現れる砂浜...島の方々が脈々と受け継がれてきた手島のすばらしさを後世にも残していただきたいと感じ、私自身今後も様々な形でお手伝いさせていただきたいと思いました。弊社は讃岐うどんをはじめとする麺類にてお土産商品を



子どもの姿に島全体が活気づく

企画、製造している会社です。手島の良さをより多くの人々に発信する商品を企画できないかと検討中です。丸亀に拠点を置く一企業として今後も手島を応援していきたいと考えております。

おおしか ふみあき  
**大鹿 文明氏**

株式会社KmD  
代表取締役

今から40年も前のNHK時代、瀬戸内海を舞台にしたテレビ小説「わたしは海」を制作。船で島々に物資を運ぶ仕事をする一家の話でした。私もロケクルーとして、船で暮らしました。この度、手島探検隊？に参加させて頂き、昔の思い出が蘇りました。海の香り、ヒマワリの輝き、若者たちとの出会い、島の方々と飲み会、珍魚の美味しさ、マダムトランプさんのガッツ。楽しいひと時でした。「わたしは手島」気分。

ひろたに きょうこ  
**広谷 鏡子氏**

作家  
香川県丸亀市広島町青木出身

島と言えば、夏。夏と言えば、島。毎年、お盆の時期に、わが広島・青木で「もんたん亭浄瑠璃」というプライベートの文楽公演を行っています。参加者の一人、豊竹希太夫さんが、瀬戸内海上空からの航空写真を送ってくれました。広島、手島、小手島がきれいに写っており、位置関係も大きさもよくわかります。



空から見た塩飽諸島 (写真右下が手島)

手島の由来は「手」の形をしているから、と聞きましたが、一体何に見えたと思います？「サングラス」です(実は、「ブラジャー」にも見えたんですが・笑)。日本のエーゲ海・瀬戸内海に降り注ぐ強い日射しのなか、植物が枝葉を伸ばし、花々が咲き誇る、絵画のような島。美味しい果物、野菜に魚介類、日本中から絶滅しかかっている人情に溢れた、楽園のような島。そんな島で真夏のひとときを過ごすー「サングラスアイランド・手島」。日本の未来はここにあるかもしれません。また来年の夏、戻ってきましょう。実は、夢がまたひとつ。手島の芝居小屋で「もんたん亭上瑠璃・番外編」。ぜひ実現したいです。

いわさわ もとこ  
**岩澤 素子氏**

京都大学農学部食料・環境経済学科  
2011年卒

私が今回印象的だったのは、港での光景です。これだけの数の参加者。当然、途中抜け途中参加の方も多かったのですが、そのたびに港へお出迎えお見送りのために大勢の方が集まってくださいました。



両手を大きく振って別れを惜しむ

船が見えなくなるまで手を振る姿が見られるのも、島ならではの。フェリーが出港した後に、なんと漁船で追いかけて見送ってくださる方まで！島の方々の心遣いが感じられた一幕でした。

たにい としき  
谷井 俊輝氏

JR四国事業開発本部

先日は、酷暑の中、尾崎代表はじめ農交ネットワークの皆様、協力企業・個人の皆様大変お疲れ様でした。二度目の参加ということで、島に対する新鮮さが薄れるかと思っていましたが、夏には夏らしい島の景色や雰囲気があり秋・冬とその時々素晴らしい手島の魅力があるのかと想像し、また別の島に来たかのような新鮮さがありました。私の中で、手島の夏は「ひまわり・青い香川本鷹・ビール」です。高田様や島の方が手塩にかけて育てているひまわりと色づきを待つ香川本鷹は、四国にいながら島時間を体験できる貴重な観光資源です。今後は、「ひまわり・本鷹・ビール」に加えて“人(旅行者・ターナー居住者等)”が追加できるような取り組みを継続して実施していく必要があると思います。農×観光×地域興しについて、JR四国の一担当として勉強していきたいと考えています。私服で海の中に入る農交ネット池田さんを見て、後追いでできなかったことが情けなく、年齢？気持ち？の老いを感じた28歳の夏でした。

かわさき りか  
川崎 理加氏

NHK高松放送局アナウンサー

第1回に引き続き、1日のみでしたが参加させていただきました。手島に到着すると港のすぐ近くで出迎えてくれたのは満開のひまわり。辺り一面に咲いていて、温かく迎え入れてくれたような気持ちになりました。手島では、毎年夏に島を訪れる家族などのために島民の方々がひまわりを植えているとお聞きしました。

空き家が多く人口は23人と非常に少ないですが、温かみに溢れている島だと改めて感じました。今回は香川本鷹の畑も見学しました。腰の高さくらいまでに苗が成長していて、青色の香川本鷹の大きさは人差し指ほど。この香川本鷹が秋口から冬にかけて手のひらサイズの鮮やかな赤色に変わるのが待ち遠しく感じました。生産者の高田さんの話を聞いていると、「島のために何かをしたい」、「手島のことをもっと多くの人に知ってもらいたい」という地元への深い愛情を感じました。秋にまたプロジェクトを開催する予定とのことで、尾崎さんを始め、京都大学の皆さんや島の方々、関係者の皆さんとともに島の魅力に触れられるのを心待ちにしております。

いおもり のぶゆき  
五百森 信幸氏

元丸亀市都市整備部建設課課長  
塩飽諸島の港湾漁港関連事業  
整備担当者(昭和51年～59年)

今回、「四国夢中人」代表の尾崎氏のお誘いで、退職後初めて手島を訪れることになりました。日曜日の昼の客船でしたが、懐かしい方々にお会いできると思うと気持ちの高ぶりを感じながら乗船となりました。潮の香りと船から見る島々の景色、何か故郷に帰るようでした。備讃瀬戸航路の浚渫でポンプ船の姿を見、江の浦、青木、小手島、手島と船が港に入るたびに、気持ちが昔にタイムスリップし、過去の様々な情景が思い出されました。藤原自治会長、高田さん、浜本さん、藤原さんなど、昔懐かしい皆様が、お元気で今も現役で頑張っておられることに感銘を受けました。いつまでもお元気で！地形に恵まれ災害が少なくため池もある、手島の農地を再生し、島の活性化を図るために「農業交流ネットワーク」のメンバーとして活動する京大生の皆様の英知に期待します。



そろって記念の一枚を